

株式会社カワタ

2024年3月期 第2四半期

決算説明会 質疑応答Q & A

(今回は、説明会会場およびウェビナー形式にて質疑応答を実施しております。)

2023年12月6日

決算説明会（2023.12.6）質疑応答Q & A

- Q: 今期の業績はおおむね計画通り着地すると理解しているが、今期の受注残の減少幅が気になる。各地域の来期以降の見通しを教えてください。
- A: 射出成形機は低調であり、どこまで回復するか見通せない状況である。自動車業界の成形機は大型のものについて少しずつ動き始めてきたとの情報もあり、来年の半ば以降はある程度回復するのではないかと考えている。電気自動車は中国を中心に設備投資が進んできたが、設備の能力的にはある程度増えてきているので、従来よりもスピードが落ちるのではないかと見ている。
- Q: 2024年3月期予想でROEが7%台、PBRが1倍割れという状態だが、今後資本効率をどのように変えようとしているのか。
- A: 今、これと言ってお話しできるものを持ちあわせていない状況である。総資産については、在庫の持ち方、リードタイムの短縮は図っていききたい。株主還元については今後具体的に検討していきたい。

(続く)

決算説明会（2023.12.6）質疑応答Q & A

（続き）

Q: プラスチック製品はESG的には難しい商材と考えているが、今後どのように対応していくつもりか。

A: 地球環境という意味では、使い捨てのものは今後減っていくと思うが、プラスチック特性である安くて成形しやすいという点において、他のものに置き換わりにくいと考えている。リサイクル技術を上げる、原材料のリサイクル材の比率を上げる、新素材で物を作るという点について各社が取り組んでいる。当社もしっかり対応して、省資源につながるどころ、製造する機器のところで省エネにつながるモノづくりをやっていききたい。

Q: 業界的には振れ幅が大きい事業と認識しており、ROEの振れ幅が大きい。そのため、投資家から見た時、ならしてみるのが難しいというなかで、来期以降については、ある程度判断を変えるような場合も当然ゼロではないとの理解でよいか。「業績を安定させるためには、資本効率にはある程度目をつぶってください」ということもあると思うが、その点についてはトレードオフの関係なのか。

A: 中期経営計画の数字は、今後の状況・景気・業界全体の状況で変わっていく可能性があると考えている。ROEは安定的に8%を目指したいと考えているが、プラスチックだけでは変動幅が大きいので、第2の柱的なものは作っていききたいと考えている。

（続く）

決算説明会（2023.12.6）質疑応答Q & A

（続き）

Q: 今期に関しては苦戦していた時期を抜けたと理解しているが、現状の事業環境では、今期並みの売上、利益は自然体という理解でよいのか。巡航速度での売上、利益はどの程度か。

A: 今期の売上の水準だが、電気自動車関連がかなり貢献している一方、射出成形機の関連はあまりよくない状況である。射出成形機がもう少し戻って来たら、電気自動車の波もあると思うが、今期並みは維持できるのではないかと考えている。

Q: 半年前との事業環境の変化について社長としてはどのように感じているのか、来年度の事業環境の見立ての変化について教えてほしい。

A: 半年前と比べてということだが、東南アジアの自動車はかつては日系メーカーの独壇場だったが、電気自動車が市場に出てから、日系メーカーのシェアが少しずつ落ちてきており、投資が慎重になってきていると感じている。当社としては電気自動車だけというわけではなく、他も見ながらバランスをとりたいと考えている。事業環境としては不透明なところが増えている。中国景気の実態がよくわからない印象である。プラスチック関連で見ると中国景気はそれほど強くない印象である。

（続く）

決算説明会（2023.12.6）質疑応答Q & A

（続き）

- Q: 中国の受注の話で、デジタルな数字は必要ないが、ダメなのはスマホだけか、それともEVの数字もよくないのか。
- A: 中国で受注が落ちているのはスマホ関連と汎用機が落ち込んでいる。EV関連は第3四半期までは落ちていない、横ばいぐらいの感じである。
- Q: リチウムイオン電池の上期の受注はどうだったか。また全固体電池について、貴社はコーティングの機器をやるのか確認したい。
- A: トータルでは受注ベースは前年同期並みである。全固体電池は量産化になったときにどういう展開になっていくのか、まだ予想ができていない。コーティング技術を使った機器を出荷していくことを中心に考えている。
- Q: スマホの設備投資は過去2年ダメな状況が続いたが、まだダメな状況なのか。
- A: スマホレンズの投資は減っていた一方、VRレンズが増えていたが、足元ではVRレンズも若干弱含みの感じである。

（続く）

決算説明会（2023.12.6）質疑応答Q & A

（続き）

Q: これまで御社の機械でコーティング技術の話は聞いたことがないが、従来の技術の応用で何とかなるとの理解でよいか。

A: コーティング技術は、当社が今まで販売してきた製品の技術とは全く違う技術である。もともと他の用途で研究していた技術を応用している。微粒子のコーティングは他のメーカーでもやっているが、当社独自のやり方であり、生産効率を上げられそうな方式ということで注目されている。

（了）

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。